毎日新聞

毎日自動車整備新聞

発行／
社団法人 東京都自動車整備振興会
〒151−0071
東京都渋谷区本町4-16-4
電話　03-5365-2311
毎日新聞東京センター
〒100−0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1
電話　03-3212-5180

目　次

巻頭インタビュー
女優　上戸 彩さん　1
GOODマーク、安心と安全の証です　2
クルマのライト切れていませんか?　3
いますぐできるクルマの日常点検　4
任せて安心、黄色いカンバンの認証工場　4

INTERVIEW aya ueto

ドラマ、映画、CM…責任感胸にステップアップ

上戸彩（うえと あや）さん

撮影:木村吉夫

テレビでこの人の顔を見ない日はないくらい、お茶の間の人気者である。ドラマに映画にCMにと、明るい笑顔を振りまきながら、真面目に努力する芯の強い人間を感じさせる女優、上戸彩さん。1997年に全日本国民的美少女コンテストで審査員特別賞に輝き、2000年に女優デビュー。幅広い年齢層のファンから「上戸彩ちゃん」と親しみを込めて呼ばれる日々だが、気がつけば20代も半ば。飾らぬ素顔の中にも大人の自覚が深まり、仕事も人生もいよいよこれからが上戸彩の時代。「絶対零度　特殊犯罪潜入捜査」撮影中の上戸さんを、フジテレビ湾岸スタジオに訪ねた。

『絶対零度』桜木泉 再び

――昨年の人気ドラマ「絶対零度　未解決事件特命捜査」では新米刑事・桜木泉を、「のろまなカメ」と言われながらも、とにかく自分で徹底的に調べないと気が済まない〝調べオタク〟として見事に演じていました。

上戸　今までになかったようなキャラクター作りだったので、熱くてストレートな女の子などいろいろな桜木泉をやろうと考えて行ったら、監督からペケを出されて、結局、肩の力を抜いてクールな女性を演じたらOKが出ました。「どうしたらいいのだろう」とドラマの前半まで葛藤がありましたが、上司役の北大路欣也さんに「よくわからないんです」と相談したら、「それでいいんです。それがカメなんですから」と言われて、気が楽になりました。

――それを受けて、いま放送中の「絶対零度　特殊犯罪潜入捜査」では、より成長した桜木泉が見られますか。

上戸　今回も先輩刑事たちからドカドカと怒られる〝カメ〟ですけど、後半は少しイメチェンして、成長ぶりをお見せできるかもしれません。1年のブランクがありましたが、この役が体に染み込んでいたみたいで、すんなりと入れました。

――今回は桐谷健太さん演じるエリート刑事、瀧河信次郎が新登場で、桜木泉と組んでいますね。「ルーキーズ」などで熱くて濃い演技を見せた桐谷さんとのコンビは、いかがですか。

上戸　それがこのドラマでは、一切桜木のほうを見ず、目も合わせずに背中越しにものを言ったりする厳しい先輩刑事役なんです。桐谷さんは近くにいると、すごい目ぢからがある人だなと感じました。でも芝居から離れると、めちゃくちゃ面白い方です。オーラがありますね。

――2000年に女優デビューしてから、翌年「3年B組　金八先生」（TBS系）で性同一性障害の女生徒、07年「李香蘭」（テレビ東京系）では2カ月の上海ロケ、10年「流れ星」（フジテレビ系）ではイワク付きの風俗嬢役など、さまざまな女性を演じてきましたが、これからはどんな道を考えていますか。

上戸　最近になって、責任感が出てきました。それまでは、敷かれたレールの上をただ走るだけで精一杯でしたけど。いろいろ自分の言いたいことを言った時期もありましたが、今では言った以上はできる範囲できちんとやらなければいけないという気持ちになっています。

――そういう気持ちはいつごろからですか。

上戸　昨年25歳になったあたりからですかね。けど、自分の中では闘っています。方向性を探っていきたい。

――今までのようなドラマの役はやらないというワケですか。

上戸　そういうわけではありませんが、誰がやってもできる役というのはつまらないと感じるようになり、達成感がありません。今までと同じことをやっても、今の私なら以前とどこか違うようにはしていかないといけないでしょう。新しい上戸彩をお見せしたい、ステップアップしたいという気持ちが強くなって、今ではこだわりが出てきました。

――女優として、どんなものをやりたいですか。

上戸　常に新しいジャンルの人間でいたい、ということですね。上戸彩ならこういう仕事をさせたいというオファーが来るようになったらいいし、自分が関わった以上は、自信の持てる仕事をしたいと思います。

――ファン、スタッフの人生も大事

――デビュー以来ずっと突っ走ってきましたが、1年後の上戸彩はどうなっていますか。

上戸　仕事人間ではなくなっている感じかなあ。

――普通の女の子に戻りたい、とか?

上戸　もう戻れませんね。普通の人が味わったような青春は味わってきませんでした。まあ、今までとペースを変えていくということですか。自分だけでなく、ファン、スタッフの人生を大事にして生きていきたい。

――一人ふらりと旅に行く、などは?

上戸　女優さんの中にはそういう人もいますね。でも私は、一人ぼっちでいるのが嫌いなんです。一人でいるとダメになっちゃう。一人でご飯もダメ。だからお弁当をもらったら、帰ってオカンと一緒に食べようと。

――ご自身でウエディングドレスのプロデュースもされていますが、さて結婚を含めた人生設計は?

上戸　いつかは結婚したい。家庭のにおいを現場で持っている役者さんがすごく好き。家族の愛に満ち溢れている感じがいいですね。

点検整備はプロにお任せ

――元気印の上戸さんは颯爽とクルマに乗るイメージがありますが、ドライブに出かけることはありますか。

上戸　19歳の時に運転免許証を取りました。マイカーを持っていますが、やはり交通事故を起こしてはいけないので、もう1年以上は乗っていません。原田美枝子さんから「子供を持った時のために、運転できるようになっていた方がいいよ」と言われましたけど。

――メカは強いですか。

上戸　ドラマの「アスコーマーチ」のような、機械に強い女の子ではありません。でも点検整備は大切ですから、プロの自動車整備士に任せています。

プロフィール

1985年9月14日、東京都生まれ。11歳のとき、第7回全日本国民的美少女コンテストで審査員特別賞受賞、芸能界入り。歌手、女優など幅広い活躍を見せる好感度の高い人気者で、CM女王にも輝いた。ドラマには多数出演。「ひと夏のパパへ」（TBS系）で初主役、NHK大河ドラマ「義経」ではうつぼ役。主演映画は「あずみ」「インストール」などがあり、2012年公開予定の映画「テルマエ・ロマエ」（武内英樹監督）では阿部寛と共演、ヒロイン真実を演じている。今年6月には初のフォトエッセイ集「20・25」（角川マガジンズ）を出版、胸の内を率直に綴っている。